

神奈川県における約 50 年ぶりとなるキクガシラコウモリの確認

清水 海渡・松山 龍太

Kaito Shimizu and Ryota Matsuyama : Rediscovery of the Greater Horseshoe Bat *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774) in Kanagawa Prefecture for the First Time in About 50 Years

はじめに

キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* は、大きく発達した鼻葉に特徴があり、昼間の休息場や冬眠場に洞窟やトンネル、家屋などを利用するコウモリ類である(阿部ほか, 2007)。イギリス, モロッコ, ユーラシア大陸, 日本などに広く分布し, 日本では北海道の一部, 本州, 四国, 九州などに生息している。神奈川県においては, Shibata & Terajima (1958) および寺島 (1960) によって, 三浦半島でコキクガシラコウモリとの混群が報告されている。また, 柴田 (1964) においては, 丹沢山地での記録として「ミカドキクガシラコウモリ」として挙げられ, 柴田・田代 (1962) および, 柳川 (1965) によって善波峠の記録が報告されている。しかしながら, その後の報告がなく神奈川県レッドデータ調査報告書では絶滅危惧 I 類の指定を受けている(広谷, 2006)。本種は洞窟に生息するため, 県内の生息報告は石切場や海食洞の多く残っていた三浦半島に多く記載があり(寺島, 1960), 鍾乳洞がなく, 大きな自然洞穴の知られていない丹沢山地において生息地は少ないと考えられてきた(山口ほか, 2002)。

今回, 筆者らは神奈川県相模原市緑区(旧藤野町)において本種を確認した。約 50 年ぶりとなる県内の生息

確認記録となるため, ここに報告する。

確認状況

筆者らは 2012 年 9 月 26 日 16:30 頃に, 神奈川県相模原市緑区中沢(旧藤野町中沢)にある, 過去に養蚕農家の桑保存用に使用していた室において, 本種 1 個体とその斃死体 1 個体を確認した(図 1)。

生体は, 室の天井にぶら下がった状態で小休止していた(図 2)。死亡個体は, 生存個体のほぼ真下の地面に敷いてあったブルーシート上に落ちていた。目立った外傷等はなく, 死亡原因は不明であった。死体は拾得し, 冷凍状態で保存した後, 仮剥製と頭骨標本を作成した(図 3)。本個体の計測値を表 1 に示す(表 1)。前腕長が 60.5 mm あることからキクガシラコウモリであると同定した。標本は相模原市立博物館に寄贈した。同年 8 月 30 日に同場所を訪れた際は, 痕跡などもなく本種の生息は確認していない。また発見以降の 10 月 6 日, 11 月 6 日, 12 月 2 日, 1 月 20 日に同場所を訪れた際にも全く確認されず, 一時的にここを使用していたと思われる。

生息地は石砂山の麓の集落に存在し, シデ類やツツジなどの落葉広葉樹林とスギ・ヒノキなどの人工林に囲ま

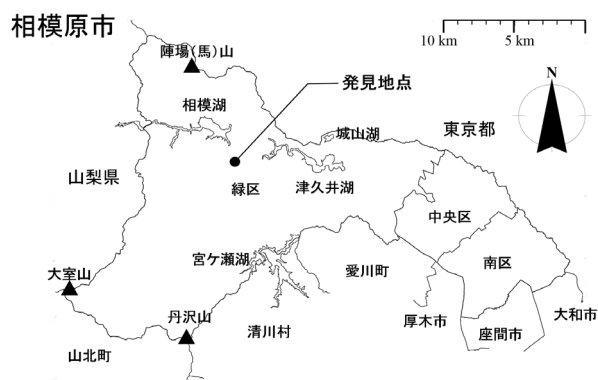


図 1. キクガシラコウモリが発見された地点。



図 2. 室内で休息するキクガシラコウモリ。



図3. 拾得死体の仮剥製標本と頭骨標本.

表1. 計測値

性別	:	♀
全長	:	105.0 mm
尾長	:	39.5 mm
頭胴長	:	65.5 mm
前腕長	:	60.5 mm
後肢長(爪あり)	:	14.0 mm
後肢長(爪なし)	:	12.0 mm
下腿長	:	27.0 mm
耳長	:	22.0 mm
耳珠長	:	6.0 mm
体重	:	27.5 g

※拾得日：2012.9.26

れている。室は古道に面した斜面に掘られており入口の高さは140 cmで内部は約160 cmの高さがあり、奥行きは300 cm、横幅は250 cmの四角形である(図4)。内部は舗装などされず掘りっぱなしで土面が露出していた。

考 察

2012年9月26日に発見した個体は発見日の翌週には姿を消していた。筆者らはその後も、月に2～3度ほど定期的に室の中を確認したところ、約1年後の2013年8月26日に1頭、9月12日に1頭が室内で休息しているのを確認した。キクガシラコウモリは季節や繁殖状況によってねぐらを移動することが知られており(庫本, 1972; 佐野, 2000)、今回確認されたこれらのキクガシラコウモリも移動の途中で一時的にこの室を使用していた可能性が考えられる。

現在、神奈川県内において、キクガシラコウモリが確認されている場所は他になく、今後の調査においては、国土交通省国土技術政策総合研究所が提示している『コウモリ類の調査の手引き(案)』(松江ほか, 2006)に基づき、バットディテクター等を用いた調査が必要であ



図4. 室入口の外観.

ると考えられる。

謝 辞

(株)応用生物の土屋公幸氏には拾得した個体を標本にいただいた。また相模原市立博物館学芸員の秋山幸也氏には標本の所蔵だけでなく文献を提供していただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

参 考 文 献

- 阿部 永・石井信雄・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦信吾・米田政明, 2005. 日本の哺乳類. 改訂版. 206pp. 東海大学出版会, 東京.
- 広谷浩子, 2006. 哺乳類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 2006, pp. 225-232. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 松江正彦・藤原宣夫・大塩俊雄・飯塚康雄・内山拓也, 2006. コウモリ類の調査の手引き(案). 国土技術政策総合研究所資料, (354): 21-54.
- 庫本 正, 1972. 秋吉台産コウモリ類の生態および系統動物学的研究. 秋吉台科学博物館報告, (8): 7-119.
- 佐野 明, 2000. 石川県における洞窟性コウモリ4種の分布とねぐらの利用状況. 哺乳類科学, 40(2): 167-173.
- 柴田敏隆, 1964. 丹沢山塊の哺乳動物. 国立園協会編, 丹沢大山学術調査報告書, pp. 338-343. 神奈川県. 横浜.
- 柴田敏隆・田代道弥, 1962. 丹沢の哺乳動物. 丹沢・その自然と山歩き, pp. 136-150. 全国林業改良普及協会, 東京.
- Shibata T. & K. Terajima, 1958. Bats of Miura Peninsula, Japan. Science report of the Yokosuka City Museum, (3): 44-52, 2pls.
- 寺島浩一, 1960. 三浦半島におけるキクガシラコウモリ属の群の変動について. 横須賀市立博物館研究報告, (5): 36-39.
- 山口喜盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子, 2002. 丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況. 神奈川自然誌資料, (23): 19-24.
- 柳川定春, 1965. 市内の哺乳類. 秦野の文化財, (1): 31-35.

清水海渡：県立津久井湖城山公園

松山龍太：富山大学大学院理工学研究部野生動物保全学研究室